

警察官を名乗る劇場型詐欺

警察官を名乗る人から電話がかかってきて、「あなたの口座が犯罪に利用されている」「あなたの携帯電話が犯罪に利用されている」などと説明されます。

その後、通話アプリやビデオ通話に誘導され「あなたは逮捕される」と不安をおおき、資産状況を聞いてきます。

また、ニセの「警察手帳」や「逮捕状」を見せて不安をおおき「資産を保護する」「口座を調査する」と言ってお金を振り込むように要求します。

これは、複数の人物が登場し金銭などをだまし取る「劇場型詐欺」と呼ばれる手口です。



被害に遭わないために

警察官がSNSやビデオ通話で個人に連絡を取るとはありませぬ。

もし、警察官を名乗ったあやしい電話がかかってきた場合は、すぐに電話を切り家族や最寄りの警察に相談してください。

困ったら一人で悩まず消費生活センターや警察に相談しましょう。

市民課消費生活センター ☎22-9122

一地域でいきいきー通いの場 VOL.93

平戸市内各地域で、週に1回以上、「平戸よかよか体操」や趣味活動を行う住民主体の通いの場を紹介します。

☎長寿介護課高齢者支援班(地域包括支援センター) ☎22-9133

「気負わない体づくり！」

令和6年6月に活動を始めた、平戸北部地区の「稗田よかよかクラブ」。参加者も徐々に増え、元気に平戸よかよか体操に取り組んでいます。



稗田よかよかクラブ 連絡員/瀬戸 美智子さん

活動日/毎週水曜日 午後1時30分～

活動場所/稗田体育館

開催地区/平戸北部稗田地区

特徴/「気負わず、気楽に」自分のペースで楽しく健康づくりに取り組み、交流を通じて心もリフレッシュできる場となっています。



「平戸よかよか体操」CD・DVDを無償貸し出し中です！また、平戸市ホームページでも動画を公開しています！

4月のオレンジカフェ日程表

※参加料がかかる場合があります。

平戸市内各地域でオレンジカフェを開設しています。内容は、脳トレ、認知症予防講話、情報交換、茶話会、専門職相談など、事業所ごとに異なります。参加する際は、下表の連絡先に事前にご連絡ください。

名称	とき	ところ	連絡先
介護予防カフェ「毎快Deカフェ」	4月5日(土) 9:00～11:00	木引田介護スクエア内(木引田町)	リハビリ特化型通所介護毎快(☎22-7154)
介護予防カフェ「よろうで喫茶」	4月15日(火) 10:15～12:00	平戸市社会福祉センター(岩の上町)	平戸市社会福祉協議会(☎22-2180)
認知症予防カフェ「およりよ」	4月26日(土) 10:00～11:30	ホープドリーム(職人町)	地域包括支援センター(☎22-9132)
認知症予防カフェ「とかじん」	4月27日(日) 10:00～12:00	デイサービスセンターとかじん(岩の上町)	デイサービスセンターとかじん(☎23-3388)
介護予防カフェ「えつなん」	4月13日(日) 10:00～11:30	平戸荘デイサービスセンター(紐差町)	代表 濱田(☎090-3850-8153)
認カフェ「いなほ」	連絡先へお尋ねください。	和く話く交流館(生月町)	いなほグループ(☎53-3012)
介護予防カフェ「ゆ〜らり」	4月16日(水) 10:30～12:00	生月高齢者生活福祉センター(生月町)	平戸市社会福祉協議会生月支所(☎53-2615)
介護予防カフェ「ふれあいカフェ」	4月9日(水) 14:00～16:00	大島高齢者生活福祉センター(大島村)	平戸市社会福祉協議会大島支所(☎55-2100)
介護予防カフェ「ニコニコ」	4月3日(木) 13:30～15:00	平戸市福祉保健センター(田平町)	平戸市社会福祉協議会田平支所(☎57-2223)
介護予防「ふれあいカフェ」	4月はお休みです。	南地区交流センター(田平町)	田平まちづくり協議会(☎29-9008)

国際交流員
の日記

岩の上のヨーシェ

vol.10

お茶

私は小さいころから、ずっと同じ特別な紅茶のブレンドを飲んでいました。それは私の母の出身地のライデン市にあるEreka(ライデン)というお茶・コーヒー専門店です。世界で最も古いとされるお茶・コーヒー店です。

この紅茶の味は、私にとって非常に懐かしいものです。遠く離れた場所においても、その紅茶さえあれば、まるで故郷にいるように感じられます。私がホームシックをあまり感じない理由の1つは、この紅茶のおかげじゃないかと思えます。

日本人々と私には、共通点があります。それは、お茶を愛していることです。日本



国際交流員
ジョセフィネ・スミット
(オランダ出身)

のお茶の歴史が1191年にここ平戸のお茶畑から始まったとされており、私もとても驚きました。

さらに、オランダ人が初めて日本の緑茶をヨーロッパに持ち帰ったのも、ここ平戸からとされています。日本とオランダ、両国のお茶の歴史にとって重要なこの地で暮らしていることは、きっと偶然ではないでしょう。だからこそ平戸が故郷のように感じられるのかもしれないね。

▼お茶と茶缶とティーポット

